行政視察報告書

市議会議長　渋谷英彦様

報告者　石原孝之

視察日時　令和２年１月27日(月)（13時半～15時半）
（長野県阿智村　学習型まちづくりの提案、移住者への丁寧な支援）

【質問内容】
１、学習型まちづくりについて
　① 概要を教えてください。
　② 成果と課題をお聞きします。
２、阿智家族について
　① 阿智家族の定義を教えてください。
　② 阿智家族の現状と課題を聞かせてください。

1月27日(月)阿智村
１、学習型まちづくりについて
阿智村には７つの公民館がある。地区館を中心に活動を行っている。

【阿智村中央公民館の活動】
◆年４回～５回、映画上映会開催
◆5年間続けていた福島県伊達市との子どもキャンプ
◆人権教育の一環で満蒙開拓団について
◆今後の公民館の可能性を探るため公民館専門研修会を開催
◆ニュースポーツのレクチャー
◆阿智祭を11月に開催（今年度で51回目）
◆阿智村駅伝大会
◆縄文土器の土器展を開催（土器の形をしたクッキー(ドッキー)を作る）
◆社会教育研究集会（６つの分科会に分かれて開催）
◆泥リンピックを開催
◆線香花火作りのワークショップ

各公民館で行っている社会教育研究集会
53年前から続いている分科会に沿った内容を町民が学習会を通して２月９日の本大会に向けて作り

上げていく→分科会からの村民の声が阿智村の事業に繋がっている

◆村づくり委員会事業
村民が 5 人以上集まったら、村民が先進都市を視察に行ける
14 団体が助成されてバス代や交通費支給
◆阿智家族
年間 68 人の定住人口を目指し、昼神温泉を中心に観光客 130 万人、豊富な地域資源(日本一の星空、花桃)奥深い歴史、故郷を思う気持ちたたかい人柄、全村博物館構想
平成 29 年に YouTube 配信
阿智家族チャンネル　(500 万円かけて作成)
阿智村は平成 18 年（浪合村）と平成 22 年（清内路村）と合併
信州や山梨は関東で移住キャンペーンを行い阿智村に来た地域おこし協力隊は延べ 10 人以上で 10 年以上経っている

【考察】
各公民館で行っている社会教育研究集会の分科会から村民の声が反映されていることが市民を巻き込んだ実践的ワークショップであり、分科会に参加する意義も持てる。単発で終わることなく連動しているところが参考にしたい点であった。村づくり委員会事業は村民が申請を出せば他県の先駆事例を見学に行けるという内容であった。自分の目で実際見て行くことは、イメージもわきやすく素敵な取組だと感じました。

令和 2 年 1 月 28 日(火) (10 月 31 日 10 時～12 時)

【長野県飯田市】まちづくり会社が主体となった複合的なエリアマネジメントによる賑わいづくり

１、　官民協働事業について

【質問内容】
① 事業発足の経緯について
飯田市と官民連携で事業を行っています。株式会社飯田まちづくりカンパニーは民間が主導する第三セクターの会社です。飯田市の市街地には 1974 年に中央資本の大型店が進出しましたが、人口減少や郊外地域への人の流れの移行などが相まって、市街地は衰退の一途をたどる。これに危惧を抱いた商店主たちが行政とともに勉強会を発足させ、中心市街地の活性化をテーマに、再開発事業などを計画。この実施に向けて、市民・行政が一体となって株式会社飯田まちづくりカンパニーが設立されました。

② 市の総合戦略におけるまちづくりの関連 KPI について

学卒者の地域内、回帰、定着数、高校卒業生の地元就職数、進学者のＵターン就職者数、休日滞在人口率、移住した子育て世帯の総人数、農ある暮らしを目的とした移住者数、南アルプスエリアを訪れた観光客数、体験プログラム年間参加数、天龍峡ご案内人が案内した観光客数、学輪 IIDA との連携によるプロジェクト数、学習支援事業、出生率、婚姻件数、子育てしやすいと思う人の割合、つどいの広場延べ利用者数、児童クラブ等の定員、子どもを産みやすいまちだと思う人の割合などです。

③ 現状や課題を教えてください

時代認識としてはすべてにおいて官民連携は必要なことと考えます。

しかし、事業規模、事業期間等々事業の諸要件により思うように展開していないことが課題だと思います。

２、・りんご並木を中心とした商業機能強化について

飯田市の歴史

太平洋戦争直後の昭和 22 年、街の一角から発生した火が、中心市街地の約７割を焼き尽くした。この大火の復興にあたり飯田市は、火災復興都市計画事業により区画整理を 実施するとともに、市民との協働によって「裏界線」や「りんご並木」の整備を行なった。「裏界線」は、住民が所有する土地をそれぞれが提供し、建物と建物の間に整備した 幅２メートルの防災用通路であり、現在もその殆どが維持されている。また、まちの中 央を走る道路の中央分離帯に、地元の中学生が美しいまちの復興を願いりんごの樹を植樹し、代々中学生が育て、市民の協力により「りんご並木」が形成されている。「裏界線」 や「りんご並木」の整備は、パブリックスペースを市民の手で維持･管理していく、まちづくりの原点となっている。

① 来訪者やボランティアとして関わる交流人口について

毎年文化の日(11 月 3 日)に今年で 14 回目を迎える飯田丘のマチフェスティバルを開催しています。来場者も 4 万人以上あるそうです。飯田市中心市街地活性化協会が実行委員会を運営しているそうです。食だけでなくアニメやコスプレイベントも開催していて若者の交流人口も増えている。市役所の職員や市民活動をしているボランティア団体が当日のボランティアを担当してくれている。

メイン通りのりんご並木は、地元中学生が収穫や手入れをしてくれ、先代から続く地元愛が継承されていることに市民も誇りを持っている。

② 商業発展の現状について

平成２年に中心市街地活性化構想として、りんご並木の利活用と再開発事業等の提案を基に、平成 11 年にりんご並木が公園型道路にリニューアルされた。また、平成６年の 橋南地区再開発準備組合設立の後、平成 13 年には、店舗･公益･住宅･駐車場からなる複 合施設、橋南第一地区市街地再開発事業「トップヒルズ本町」が完成した。平成 18 年には、橋南第二地区市街地再開発事業「トップ

ヒルズ第二」が、住宅・店舗・業務・公益 の複合施設として完成し、さらに、平成 19 年には、優良建築物等整備事業「銀座堀端ビル」が、民間による共同建替事業として、高齢者コミュニティ施設や高齢者専用賃貸住 宅・分譲住宅・店舗・業務の複合ビルとして完成し、官民協働によるまちなか居住、複合 機能拠点づくりが進められてきた。

【考察】

市街地の活性化は焼津市も同じ課題である。官民一体となり会社を設立して市ができること、民間ができることを密に連携しながら行っているところが参考になりました。コスプレイベントを開催して県市外から人を呼び込むまちおこしをしたり、メイン通りのりんご並木は地元中学生がメンテナンスや収穫などを一連を行っており、まちづくりと教育を連動、官民一体の事業など、飯田市の市民が街を想う取組、そして老若男女の接点づくりのがとても参考になりました。